

学校教育目標	「ちからいっぱい」 やさしく・かしこく・たくましく ～知・徳・体・コミュニケーションの調和のとれた人間性と、未来を切り拓く力を身につけた児童の育成～
目指す学校像	「笑顔と希望にあふれ、みんなに愛される学校」 ～「認めて育てる」教育の推進～

重点目標	1 子ども一人ひとりのwell-beingを育むための組織づくり 2 教職員の個性を生かした活気ある教育活動の推進・充実 3 コミュニティ・スクールを活かした特色ある学校づくり 4 安全で美しい教育環境の整備と適切な予算執行 5 SSSPによる「教え方」「働き方」の改善・向上
------	--

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学びの質の向上に関する取組

子どもの発達や心をサポートに関する取組

地域とともにある学校づくりに関する取組

教育環境の整備に関する取組

教職員のキャリア形成に関する取組

年度		学校自己評価			年度評価		学校運営協議会による評価		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	実施日 令和 年 月 日	
1	(現状) ○全国学力・学習状況調査では、国語、算数ともに全国、全市平均と比べ良好な結果である。 ○市の学習状況調査において、「学習に対する関心・意欲・態度」に関する質問に肯定的な回答をした児童の割合は、市平均と比べ理科、算数、社会でやや高く、国語、G・Sでやや低い。 ○児童のICT能力が高く、日頃の学習では意見交換や調べ学習等でタブレット型コンピュータを積極的に活用して学びに向かう児童が多い。 (課題) ○全国学力・学習状況調査の結果分析から、習熟の二極化と、根拠や理由など自分の考えを表現することに苦手意識をもっている児童が多い。 ○学習内容の理解度に比べると学習への興味・関心が十分に高まっておらず、児童が学習の意義を実感できるようにすること、達成感や充実感を味わえるようにすることが課題である。	・基礎基本の定着と学びの自律化に向けたICTの活用、授業改善 ・一人ひとりのWell-Beingを大切に「未来の教育」づくり(学び方・教え方・働き方の向上)	①「学びの指標」を生かした授業の達成状況について各教員が客観的に振り返り、授業力向上を図る。特に、授業ではICTを活用した自己の学びを振り返る時間を設定し、児童が自己の課題を把握できるようにする。 ②教科担任制を充実させ、かつICTを効果的に活用し、自分の思いや考えを表現する力を高めたり、児童同士で意見等を共有して表現したりする授業を進める。	①各種学習状況調査の学習に関する質問項目において、80%以上の肯定的な回答が得られたか。全国学力・学習状況調査における質問項目「課題解決に向けた取組」において、95%以上(R6:95%)の肯定的な回答が得られたか。 ②学校評価項目「授業内容・発表・質問」の児童の達成率や市学習状況調査の学習に関する肯定的な回答率の割合が共に85%(R6:82%)以上となったか。	①学校評価の児童アンケート「授業では書いたり発言したりして自分の考えを伝えていますか」において90%以上(R6:88%)の肯定的な回答が得られたか。 ②学校評価の児童アンケート「授業の内容は、よくわかりますか」において、肯定的回答が95%(R6:94%)以上となったか。				
2	(現状) ○市学習状況調査で、設問「学校に行くのが楽しい」に肯定的な回答をした児童の割合は高く、設問「自分にはよいところがある」では低い。 (課題) ○教職員間で「認めて育てる」という方針を具体化・共通理解できたことで、自尊感情の高い児童が増加したが、学年・学級で指導や声かけ等にバラツキがある。	・自己肯定感を育む、児童一人ひとりへの細やかな教育支援・相談に向けた校内体制の充実	①年度当初に「元気アッププロジェクト」について全教職員で共通理解を図り、教職員の個性や持ち味を生かした活気ある教育活動を推進する。 ②スクールダッシュボードや定期的なアンケート・面談の実施、SoLa一むの効果的運営により児童の状況を細やかに把握・分析し、適切なタイミングで組織的に支援・相談を行う。	①各種児童アンケート「自尊心」や市学習状況調査「学校は楽しい」において、関連する項目の肯定的な回答の割合が88%(R6:85%)以上となったか。 ②学校評価の教職員アンケートの項目「教育支援・相談」において100%(R6:99%)達成、保護者アンケートの項目「家庭への連絡」において95%(R6:93%)以上の肯定的な回答が得られたか。					
3	(現状) ○昨年度コミュニティ・スクールに関する情報をHPで発信し、学校行事や親子夕涼み会、3世代ふれあいフェスタ等を通して学校・家庭・地域全体との結びつきを強めることができた。 ○児童・保護者の悩みやトラブル、いじめや問題行動等に対して家庭やSC、SSWと連携しながら、迅速かつ丁寧に対応することができた。 (課題) ○児童と地域が繋がる場を広げ、学校と地域が協働して地域総がかりの教育を実践していく。 ○挨拶等を通して顔の見える関係づくりを進め、学校と地域、関係する諸団体との結びつきを確かなものにしていく。また、地域全体の望ましい人間関係づくりや地域教育力の向上を目指し、児童を守る防犯・防災体制も整えていく。	・目指す児童像を地域全体で共有するためのICT活用、教育活動公開 ・トラブル等における適切な対応と地域総がかりによる挨拶を通じた地域教育力の向上	①各種ボランティアや地域諸団体による協力や、本校HPを通して学校運営協議会及びSNSの情報を発信して学校の様子等を家庭、地域と共有する。 ②運動会の充実や、地域懇談・育成会等への参加、地域の方を招いた給食試食会の実施等を通して、学校の情報提供と共に、要望等にも耳を傾ける。	①学校評価の保護者アンケートで、「学校や地域の特色を生かした教育活動に取り組んでいる」と回答する割合が96%(R6:96%)以上となったか。 ②学校自己評価の保護者アンケートで、「保護者や地域の方々に学校を知ってもらおう努力をしている」と回答する割合が95%(R6:95%)以上となったか。					
4	(現状) ○4月現在の保健室の利用状況は156人となっている。決して低い値とは言えない現状である。来室理由は、けがが約7割、病気が約3割である。 ○定期的に安全点検を行い、修繕が必要な場所について適切に対応してきた。 (課題) ○児童は事故やケガ防止の当事者意識が低く、「健康について関心はあるが、ケガや病気を未然に防ぐ」という点について児童の自覚や、教職員の指導の在り方等に課題がある。 ○経年劣化も含めて修繕が必要な場所に適切な対応が必要である。	・安全点検と修繕等対応を適切に行う。 ・計画的に適切な予算執行を行う。 ・清潔、安心安全な居場所づくりと児童の自己管理能力を育む各種取組の充実	・月の安全点検の報告について事務や教頭と情報を共有し、速やかに対応する。(通年) ・事務職員と常に情報を共有し、12月までに旅費等適切な予算執行を終える(12月まで)	①安全できれいな環境づくりに向けて児童・教職員共に整理整頓の意識を高め、校内けがマップの活用やけがの発生場所や原因の分析共有を行う。 ②生徒指導委員会や児童会(高学年)を中心に廊下歩行・右側通行や、清掃活動の徹底を図る。	①安全点検後の修繕等対応未実施1件以下にしたか。 ②12月末の予算執行80%以上になることができたか。				
5	(現状) ○日常的にICTを活用する姿がみられるようになり、昨年度には「個別最適な学び」研究指定校として、研究発表会を開催した。 ○高学年教科担任制により、担当教科における深い教材研究を行うことができていく。 (課題) ○ICTの効果的な活用方法については、学校DX推進部が中心となり検討・周知する。 ○校内研修や学年会で、個々の悩みや課題等を適時共有し、主体的な研修の充実を図りたい。	・一人ひとりが力を発揮し、学校に集う誰もが居心地のよい(Well-Being)学校をつくる研修の充実	①学期に1回以上、スクールダッシュボードを含めICTの効果的な活用方法について学ぶ研修を実施する。 ②高学年教科担任制により複数教員で学年児童の様子を多面的にとらえるとともに、各教科の専門性を高めることで児童理解と授業改善を行う。 ③個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実を目指し、教員が個人課題を設定し、実践に取り組み、学校全体の授業力を高める。	①学校評価の教職員アンケート「視聴覚教材の活用」において100%(R6:100%)の肯定的な回答が得られたか。 ②学校評価の児童アンケート(高学年)で、「授業の内容が、よくわかる」と肯定的に回答する割合が100%(R6:99%)となったか。 ③全ての教員が授業改善を行い、学校自己評価の教職員アンケート「研修」項目で、「強く思う」回答の割合が25%(R6:22%)以上となったか。					

学校運営協議会による評価

実施日 令和 年 月 日

学校運営協議会からの意見・要望・評価等